

2018年、中部ジャワ州 PEKARGAN 県から、小学校飲料水浄水施設の設置を依頼されている。
2015年の東ジャワ州での運営システム（設置学校の選定、周辺コミュニティとの協議内容、中央政府および地方政府との協議内容）を援用することで進めている。

問題は、同県は有名なバティック製造地域であることから、小規模な工場が多く、化学染料が川に流れ込んでいることである。河川の汚染状況の調査とその状況解消に同時に取組む必要がある。
もともと、学校井戸水の自然毒問題は、化学毒の問題と合わせて取組むべきことであるが、PEKARGAN の場合、顕著なケースといえる。

従って、両面作戦で取組むことにしている。

浄水機の設置については、これまで同様、バンドン工科大学との協働で取組み、河川の水質汚染解消については、中部ジャワ州スマラン市の UNDIP（デポネゴロ大学）化学研究所と共に取組む。



2018年3月、中部ジャワ州 PEKARGAN 県、汚染水の流れ込んでいる池。
地下水との関係を、県政府予算で UNDIP が調査できるよう交渉活動を行っている。

PEKARGAN 県の環境対策を担当している職員たちと共に、浄水施設設置候補の周辺水質調査を行っている。東ジャワ州のケースよりも深い調査を必要としている。



PEKARGAN 市内の朝飯屋台。
C.P.I.JAPAN のプロジェクトでは、極力経費を抑えて活動を行っている。

PEKARGAN 県の県長との協議。C.P.I.JAPAN 小西と、現地責任者 Ir.TULIS が同席。TULIS 氏は、元・国会議員。小西とは、2005-2008年に世界銀行と連携した高地山村開発とともに苦労した仲間である。